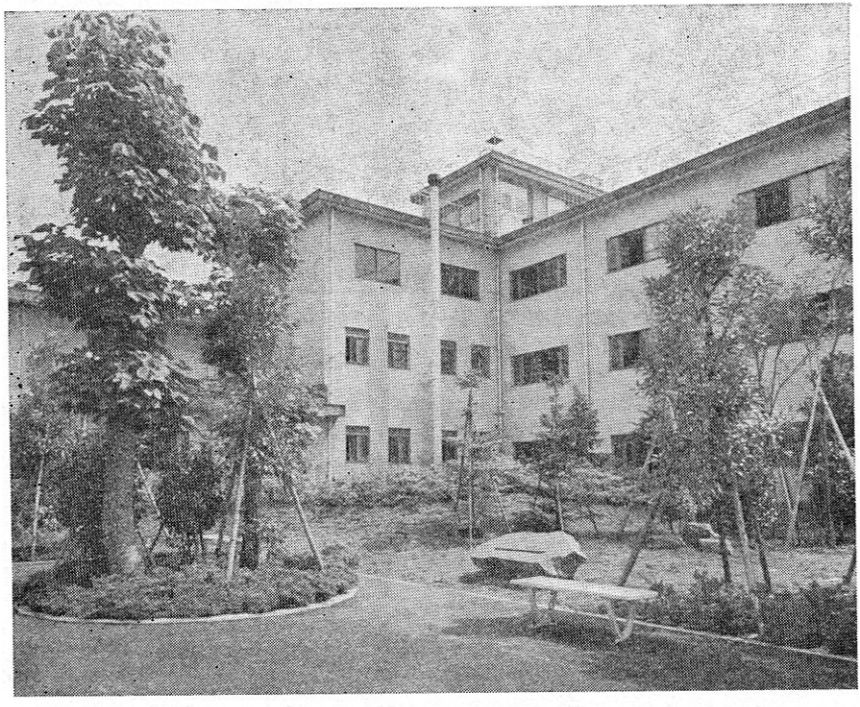
広陵



第 8 号

54. 8. 1

54年度 総 会　8 月 26 日(日)

神奈川県立秦野高等学校同窓会々報

《 思い出のシリーズ 》 （その Ⅷ）

終戦直前の昭和20年６月～７月、勤労奉仕で麦刈りをする
秦野中学１年生。３年生以上は工場へ動員されていた。

同窓会々報 第八号 目次

表紙題字　宮本信義（中5）
写真（全紙面）「かぶらぎ写真館」蕪木孝之典（中15）
五十四年度の展望……会長　加藤頼章……1
総会のご案内……2・3
秦高の昨今……母校校長　岡本弘……4
今、母校は（写真特集）……5
母校の近況―進学カルテ―……6・7
母校から〝こんにちわ〟部活動だより……8・9
〝あらかると〟石井隆士先生の巻……10・11
伊勢原支部だより……横山清太郎……11
恩師訪問―山下大五郎画伯―……12
奈五美会（同窓会だより）……13
会員の近況を……14
編集後記……14

五四年度の展望

会長　加藤頼章（中3）

昨年広陵第七号で「円高のドル安」について申し上げましたが、丁度今年は「東京サミット」もどうやら終了し、「東京宣言」があったのでその意義について考えてみたいと思います。それは我が国が二重三重の責任を負わされたといえよう。世界経済をインフレなき安定成長に導く責任、石油の大量輸入国として省エネルギーを徹底する義務、産油国を含めた南の国との対話を進めるかけ橋としての役割等。だが「宣言」だけでは強制力は十分でないし、抜け穴もあろう。だからこそ、世界経済や国際政治にとっての今回のサミット評価は、先進各国が次の「ベネチア、サミット」を目指して「宣言」を忠実に履行するかどうかにかかっている。

丁度戦前日本が富国強兵策をとり、世界の軍事緊張を加速せしめ結局日本は昭和二〇年に自滅し、そしてまた今、富国強兵経済策、これが世界経済に緊張をもたらし、今日本は国際的孤児になりつつある。この様な傾向には、自己優先の国民エゴや、成り上り者の「生き哲学の貧困さ」をいう前に、人類のありようにまでつながる深刻な問題を含んでいるようで憂慮に耐えない。無資源国を理由の貿易立国、技術開発、猛烈人間の奨励という不用意な発想は、その延長に資源の収奪、南北格差の増大、歯止めのない競争礼賛、消費の不当拡大など、物心両面にわたって、地球を荒廃させるのみで、それには人類に貢献できる様な文化性が認められない。これを国内教育について考えるとき、競争と満点主義をはびこらせ、耐性欠如の過保護児に、病状に合わない過酷を強いて、無気力児、登校拒否児、非行児等の犠牲者を続出させている現状であり、とにかく勝者か敗者かの二者択一の思想に救いはないので、ほどほどに足ることを教え平凡でもよいから弱者をかばいながら共存できるような、我が国は第三の主張として「文化立国」を世界に向って説くべきであり、又実行すべきではあるまいか。と今回の「東京サミット」の終りに当り思慮された次第であります。

さて今年の同窓会の活動としては、昨年広陵で申し上げました三つについての手なおしとして、第一に組織の強化は、会員名簿も完成し、各支部のそれぞれの要望に応えた名簿を配布して、支部活動の資料にされている現況であり、支部役員の今後の活躍を期待しております。

次に同窓会造林については、五月一七日の幹事会におきまして、造林の実態調査実施の承認を得ましたので、北秦野森林組合との話し合いで、間伐の程度、内容、範囲、有効木の数等を調査して八月上旬に報告される様いたしましたので、報告申し上げます。

次に第三の会館建設については同窓会造林の調査結果待ちであります。

以上簡単ではありますが、昭和五四年度の展望について申し上げましたが、会員諸兄姉の絶大なる支援とご理解をお願いいたします。

「菜の花台」の学校造林の手入れにむかう生徒。
—昭和30年頃—

〝秦野〟でお会いしましょう!!

秦中高10,000有余の同窓生諸君

総会日時　8月26日(日)　PM 2:30から

総会会場　秦野商工会議所内「レストランやなぎ家」
国道246号沿い秦野市落合340　電話0463(81)7428

会　費　2,000円

駐車場は少々ありますが、車は御遠慮ください。

総会日程

PM 2:30　受付

PM 3:00　総会
- 53年度事業報告及び決算報告
- 54年度事業計画及び予算案審議
- その他

PM 4:30　懇親会

総会のご案内

昭和54年度　秦野中・高同窓会

総会のご通知

会長　加藤頼章

定例総会が八月二六日秦野で開催されます。毎年参加者が少ないので各幹事さんが開催時期、方法についていろいろ論議の結果別記のようにきまりました。秦野地区支部の諸兄が設営してくれました。

どうか会員諸兄の多数のご参加をお願いします。

54年度事業計画

一、幹事会、総会などの開催
一、会報第八号の発行
一、支部活動の強化
一、会費納入の促進
一、名簿販売
一、在校生活動振興
一、造林の調査、間伐
一、記念造園の整備
一、慶弔

53年度事業報告

5月～10月　関東大会→陸上七名、柔道七名、弓道四名、庭球二名
全国大会→陸上一名、庭球二名
国体→陸上二名
出場選手に激励金をおくる。
6月3日　幹事会　予・決算案、総会の開催法などを審議（於やなぎ家）
7月22日　会計監査（於母校）
7月30日　会報「広陵」第七号発行
8月27日　53年度総会（於小田原だるま）
11月19日　母校校内一万米競走に賞品をおくり激励
2月17日　母校部対抗駅伝競走に賞品をおくり激励
3月1日　母校卒業式、新会員四四六名を迎える。
3月　50周年記念造園の手入、ブラスバンド部へ助成
上記の他、年間を通じ名簿販売、支部名簿作成を行う。

記念館設立準備積立金会計報告

前年度末残高　五四・五・二六現在　五、一五一、二一七円
利子　一六二、九四一
合計　五、三一四、一五八円

昭和53年度　決　算　報　告

収入の部　　(53. 4. 1→54. 3. 31)

項　　目	本年度予算額	本年度決算額
	円	円
前年度繰越金	1,886,319	1,886,319
卒業生入会金	894,000	894,000
会　　費	1,100,000	784,803
繰　入　金	0	0
雑　収　入	10,000	118,272
合　　計	3,890,319	(イ) 3,683,394

支出の部

項　　目	本年度予算額	本年度決算額
	円	円
会議費	150,000	(95,426)
総会費	100,000	63,566
幹事会費	40,000	30,150
委員会費	10,000	1,710
事業費	1,780,000	(1,380,920)
支部育成費	600,000	340,210
在校生活動振興費	130,000	130,000
ブラスバンド助成費	50,000	50,000
造林調査費	50,000	9,680
造園維持費	50,000	50,000
慶弔費	50,000	6,000
会報発行費	850,000	795,030
事務費	112,000	(101,700)
事務局費	100,000	100,000
通信費	5,000	0
印刷費	5,000	0
森林組合賦課金	2,000	1,700
予備費	1,848,319	0
合　　計	3,890,319	(ロ) 1,578,046

昭和54年度　予　算　案

収入の部　　(54. 4. 1→55. 3. 31)

項　　目	前年度決算額	本年度予算額
	円	円
前年度繰越金	1,886,319	2,105,348
卒業生入会金	894,000	892,000
会　　費	784,803	1,100,000
繰　入　金	0	0
雑　収　入	118,272	25,000
合　　計	3,683,394	4,122,348

支出の部

項　　目	前年度決算額	本年度予算額
	円	円
会議費	(95,426)	(150,000)
総会費	63,566	100,000
幹事会費	30,150	40,000
委員会費	1,710	10,000
事業費	(1,380,920)	(1,630,000)
支部育成費	340,210	300,000
在校生活動振興費	130,000	230,000
ブラスバンド助成費	50,000	50,000
造林調査費	9,680	100,000
造園維持費	50,000	50,000
慶弔費	6,000	50,000
会報発行費	795,030	850,000
事務費	(101,700)	(112,000)
事務局費	100,000	100,000
通信費	0	5,000
印刷費	0	5,000
森林組合賦課金	1,700	2,000
予備費	0	2,230,348
合　　計	1,578,046	4,122,348

次年度繰越金(イ)－(ロ)＝2,105,348円

秦高の昨今

母校校長　岡本　弘

私が秦野高校の校長を拝命して早いものでこの八月末でまる三年になる。しかし本校への赴任は、四十八年四月で、横須賀大津高校教頭から、本校教頭に転じたものであり、それから数えると八月末で、丁度六年五ケ月になる。

最近の管理職異動にかかる、在任期間が、一ケ所の高校、三年以内が普通ということから考えるとかなり長く秦野高校に、お世話になっているといってよい。

二十年ぐらい前までは、一高校にかなり長年月校長をしておられた方が多かった。最近のように、毎年十校前後新設校が設立され、県立校も一三五校の多きに達すると、どうしてもそれに伴い異動も増えてくるのはやむを得ないのであろう。

在任地の状況が分り、勤務校の職員生徒が分るようになるには、どうしても一年はかかる。着任後二年目が今後の計画を準備する期間とし、三年目ぐらいからようやく、その学校の伝統に立脚しつつさらに新しい教育プランを実行に移すのが普通にできることとすれば、人事の新陳代謝は必要とは思うものの、長く同一校に勤務したいと思うのは、人情もからんでのことである。

私事はさておき、本校が三十学級、一三五〇名の大規模校になってから、五年以上経過した。現在男生徒、女生徒の比率は約七対三であり、男女共学の実は、着々とあがってきていると考えられる。

この二、三年間の傾向として、平塚方面の中学校からの入学者が漸減し、逆に秦野・伊勢原方面の中学校からの入学者が増えてきている。五一年度の平塚方面中学出身者は、全体の四〇%であったのが、五四年度は二四%に減少しており、秦野・伊勢原方面中学出身者は、五一年度全体の五〇%であったのが、五四年度は六六%に増加している。極端な例をとると、平塚市内のある中学校では、数年前まで二〇名ぐらい入学していたが、最近はその四分の一、五名ぐらいしか入ってこないというのがある。

この原因はすでにお分りのように、この二、三年の間にこの地区に新設校が三校できたからである。このように男女共学を再実施して六年目に入り、又地域別に通学者数に変動が生じてきたりして生徒の学習あるいは生活態度なども、少しずつではあるが、変化を見せてきたようである。

現在の高校入学が、九十数パーセントの率を数えるようになって以来、生徒の多様性に対応せねばならないという、教育の困難性から、進路指導、生活指導も複雑多岐にわたり、その上に学校をとりまく社会情勢もからんでくるので一時代前の教育者と違った苦しさむずかしさを最近ひしひしと味わっている。

ともあれわれわれは、秦高の生徒を、如何にすれば人間性豊かな人間に、教育し社会の要求にこたえることができるか、常に研究し実践しているのであるが、これに同窓生諸氏のご協力を得られれば幸甚である。

第33回校内１万米競走大会と、賞品の湯呑茶碗。コースは 交通事情から何回も変更されたが。（53年11月）

今、母校は

▲燃える騎馬戦(体育祭)

▲逞しい女子砲丸(記録会)

▲　？(体育祭)

▲秦高も女上位？　二人三脚

▲母校応援団

▲女子王国？ブラバン
(60回野球神奈川大会応援)

▲堂々の入場(60回大会)

▲文芸部展示(広陵祭)

▼手芸品即売(広陵祭)

▲社会見学(伊豆サイクリングセンター)

寸描 二母校の近況二 進学カルテ

多様化する進路

◇ 共通一次国公立一本化で私大へ影響。幅広い進路決定で ◇
◇ 各種専門学校志向が増加。就職も少数精鋭で厳しさ増す。 ◇

進学係主任 真田道司

共通一次試験を含む新制度入試で話題をまいた五十四年度入試も終りまた夏休みを迎えようとしています。不安やとまどいの中で行われた共通一次でしたが結局高校三ケ年間の学習の中で五教科七科目をこつこつ努力した成果が問われるわけであり、それほど神経質に考えることはないと思います。又新制度入試の私大への影響ですが、国公立一本化という中で、早、慶のような一流校より、一ランク落した、中央、明治学院、青山、法政等の中堅校に受験者が急増したようです。

このような中で、本校の五十四年度の進路をふり返ってみますと昨年あたりから進路の多様性というか、四年制大学か、就職かという型でなく、四年制、短期、各種専門学校、就職というような幅広い傾向が今年もはっきりみられました。これは、生徒が、ひとりひとり、ただ周囲の考えや社会的通説で進路を決めるのでなく、自分を理解し、自ら考えて、自らの進路を決定しようということのあらわれであり、好ましい傾向だと思っています。問題はそういう風に決めた進路を自分のものにする努力いかんにかかっているといえると思います。

大学の進学状況については、現役がややがんばったような結果がでていますが、まだまだ力を出し切れず、破れ去ったケースが多かったようです。あと半年あればなんとかなったんではないかという生徒がかなりみられます。逆にいえば、三年になって腰をあげたのでは完全におそいのであって、少なくとも二年の夏休みまでには、ある程度までは自分の進路を決めること（例えばほんとに大学へ進み勉強する必要があるのかどうか）そして決めたらそれに向って真剣にとり組む以外、道は開けないと思います。

進路の多様性という点に関してもう一点、本年度は各種、専門学校への進学者が、五十四名と卒業生の十二%を占めましたが、これは無意味な大学へ行って、四年後に、不安な要素の多い就職で苦しむより、早く専門的技術や知識を身につけ、自分の人生設計をうち立てた方が有利だという考え方がはっきり現われていると思います。しかし、たとえ各種、専門学校を終っても、資格としては、高卒と同じであり、実力だけが問われる所であり、よほど本人がしっかりした信念をもって望まないと挫折してしまうと思います。

このことは、就職についても同じことで、今年は昨年に比して、十八名も多い三十九名が就職しましたが、民間事業所の求人は八十五社と百社を下まわり、各社、このような経済状況下、少数精鋭を中心としており、かつてのように勉強がいやだから、就職をということではもはや通用しない時代になっていて、どの社も厳しい試験面接を課しています。又時期的にも大学進学とちがい、開禁の十月を迎えると、たいへん困難な状況になります。そういう意味で、就職希望者は進学希望者以上に、自分を理解し進路の決定にあたっては真剣に取組むことが望まれます。

各種・専門学校進学者数

系統別＼男女別	男	女	計
工学関係	14	1	15
医療関係	1	2	2
衛生関係	1	2	3
商業実務関係	9	7	16
家政関係	2	1	3
文芸教養	4	5	9
合計	36	18	54

最近3ヶ年大学合格者延数

大学名	54年 現	54年 浪	53年 現	53年 浪	52年 現	52年 浪
白百合女子	1	—	—	—	—	—
専修	5	20	5	12	17	15
創価	1	2	—	3	4	—
大正	1	—	—	—	—	—
大東文化	—	3	—	2	—	1
拓殖	—	—	1	—	7	—
玉川	2	1	2	—	1	2
多摩美術	—	1	1	—	—	3
中央	1	12	2	9	13	4
帝京	5	—	4	2	2	1
東海	28	13	31	22	27	14
東京音楽	1	—	1	—	1	—
東京家政	1	—	1	—	—	—
東京経済	3	3	2	2	—	2
東京造形	—	1	—	—	—	—
東京電機	3	6	4	4	2	3
東京農業	—	2	1	—	7	3
東京理科	—	5	—	3	2	—
東邦	1	—	—	—	—	—
東洋	5	5	1	4	2	7
二松学舎	—	1	—	—	—	1
日本	15	25	21	24	28	22
日本体育	2	—	—	—	1	1
文化女子	—	—	1	—	1	—
法政	12	9	2	11	13	19
星薬科	—	—	—	1	—	—
文教	1	—	—	—	—	—
武蔵	3	1	1	3	3	3
武蔵工業	1	5	—	3	2	1
武蔵野女子	—	—	—	—	1	—
武蔵野美術	—	1	—	—	—	—
武蔵野音楽	1	—	—	—	—	—
明治	3	10	4	10	11	6
明治学院	1	2	4	5	3	2
明星	1	—	—	1	2	2
立教	—	—	—	3	4	2
立正	4	5	2	2	4	1
和光	2	1	—	—	—	—
早稲田	3	4	7	6	6	8
金沢工業	1	—	—	—	1	1
愛知工業	—	—	—	—	1	—
中京	—	—	—	—	—	1
岐阜	1	—	—	—	—	—
立命館	1	—	—	—	1	—
大阪芸術	1	—	—	—	1	—
大阪電通	—	—	1	—	—	—
高野山	1	—	—	—	—	—
福岡	—	—	1	—	—	—
長崎造船	—	—	—	—	—	1
麗沢	—	1	—	—	—	—
関東学院女子	15	—	5	—	2	—
京浜女子大	—	—	4	—	11	—
相模女子大	4	—	3	—	1	—
上智	1	—	3	—	1	—
湘北	2	—	1	—	2	—
洗足学園	—	—	—	—	1	—
鶴見女子	1	—	2	—	2	—
フエリス女学院	—	—	—	1	1	—

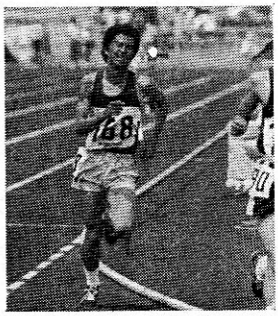
大学名	54年 現	54年 浪	53年 現	53年 浪	52年 現	52年 浪
大和学園	1	—	3	—	—	—
横浜女子	1	—	1	—	—	—
青山学院女子	—	—	1	—	1	—
跡見学園	—	—	—	—	1	—
桜美林	2	1	3	—	2	—
大妻女子	2	—	1	—	2	—
学習院女子	—	1	—	—	1	—
和泉	1	—	3	—	—	—
共立女子	—	—	—	—	1	—
駒沢大	3	—	4	1	—	—
昭和女子	—	1	2	1	—	—
女子美術	2	—	1	1	—	—
杉野女子	2	—	1	—	—	—
成城大	—	—	1	—	1	—
聖徳栄養	—	—	—	—	1	—
玉川学園女子	2	—	1	—	1	—
調布学園女子	—	—	2	—	—	—
帝京	—	—	—	—	1	—
戸板女子	1	—	1	—	—	—
東海大	3	—	—	—	1	—
東海大医療技術	3	—	—	—	—	—
東京家政学院	—	—	1	—	—	—
東京家政大	3	—	1	—	1	—
東京女子体育	1	—	—	—	1	—
東京農大	—	—	1	—	1	—
桐朋学園女子	—	—	1	—	—	—
東横学園女子	1	—	—	—	1	—
東洋大	5	—	1	—	—	—
東洋女子	1	—	—	—	—	—
日本女子経済	—	—	1	—	1	—
日本大	1	2	4	2	1	—
日本女子衛生	1	—	1	—	—	—
日本女子体育	—	—	3	—	—	—
富士	2	—	1	—	—	—
文化女子	—	—	1	—	—	—
東京成徳	1	—	—	—	—	—
神奈川大	2	—	—	—	—	—
青葉学園	1	—	—	—	—	—
神奈川県立栄養	1	—	—	—	—	—
トキワ松学園女子	1	—	—	—	—	—
武蔵野美術	—	1	—	—	—	—
昭和音楽	1	—	—	—	—	—
東京女学館	1	—	—	—	—	—
文教女子	—	—	1	—	1	—
武蔵女子	—	—	1	—	—	—
明治大	—	—	1	—	—	—
法政大	—	—	—	2	—	—
国際	—	—	—	1	—	—
京都外語	—	—	—	—	1	—
都立工科	—	1	—	—	—	—
高山	—	1	—	—	—	—
国公立	3	13	4	5	6	4
私立	197	239	173	213	270	215
短期	69	8	62	9	42	4
その他	0	0	1	0	6	1
合計	269	260	240	227	319	223
総計	529		467		542	

陸上競技部全国大会に出場

長距離で久々の出場
今川博喜君の健闘を期待

顧問　石原春男

毎年この時期になると広陵の原稿書きを依頼される。依頼されることすなわち競技部は毎年大きな大会に出場する強い部活動、と喜びつつ重い筆をとるのが常のようです。さて本論に入ります。去る五月二十六日、二十七日藤沢の体育センター競技場で全国大会の県予選会が開かれました。その中で一六〇〇米リレーは予想以上の健闘を見せ三分二十五秒五の好タイムで第五位に入賞した。メンバーの最高タイムが五十一秒五という力でこのタイムが出たことが不思議なくらいです。千五百米、五千米では二年生の今川博喜がそれぞれ四分六秒一、十五分二十四秒五で三位、六位に入賞し関東大会に駒を進めた。



レースのたびに記録を更新する今川君の力走ぶり

関東高校陸上競技大会は六月十五日から十七日にかけて栃木県宇都宮陸上競技場で開催され折からの暑い日差しに苦労した大会だった。まず一六〇〇米リレーは県大会第五位ということであまり期待はしていなかったのですが大健闘で決勝へ進出、最終日の最後のレースでは惜しくも七位で全国大会出場ならずしかも六位との差が〇・三秒の三分二十四秒九。入賞はならなかったがチーム新記録は称賛に値する。さてもう一方の一五〇〇米、五〇〇〇米について、第一日目の一五〇〇米は実にうまいレース展開で堂々五位に入賞記録も四分二秒二の自己記録だった、この今川選手は走るたびに二秒ずつぐらい記録が良くなり、かつて石井隆士選手は同じ高校二年のときには四分四秒が最高だったと聞く、その力が推察できる。

五〇〇〇米は藤沢商業の加藤選手が前半からぐんぐんとばしその中で今川はじっくりあとの方から自分のペースで走っていった。結局加藤選手のペースについていった者がオーバーペースでだんだん遅れはじめ自分のペースを守った今川選手は四位に入賞した記録は平凡なものであったが確実に大切な試合で入賞する精神力には頭が下る思いです。

そういうわけで全国大会出場は今川博喜君の一五〇〇米と五〇〇〇米の二種目になりました。長距離で全国大会出場は石井隆士選手以来六年ぶりのことでありその石井隆士先生の指導のもとに決勝進出を目指して毎日練習にはげんでおります。まだ若い二年生でありその可能性も前に書いたようにレースのたびに記録更新といった調子ですのでコンディションの調整さえうまくいけば良い結果が期待できるかと思います。先輩諸兄のご声援をお願いいたします。

高梨さん堂々三位に入賞

県高校剣道大会〝秦高女子強し〟

顧問　能島栄之助

5月26日に大和市運動公園体育館で行われた県高校剣道大会女子個人戦で本校の2年生が目ざましい活躍を見せた。秦高男子は北相の雄として県下に知られているが女子剣道部は部創設2年目と経験が浅くまだ多くは期待できなかった。しかし、この日出場選手全員が4回戦以上に勝ち進み、多くの観客の注目をあつめた。中でも高梨真由美（26R）さんはこの日非常に好調で5回戦まですべて2－0のストレートで勝ち抜き6回戦で強敵岸（東海相模）を2－1の接戦で破り、7回戦では磯谷（藤沢北）に延長戦のすえ勝ちついに決勝リーグへと進出した。現在神奈川の剣道は東海相模の全盛時代

〝こんにちわ〟だより

母校から

部活動

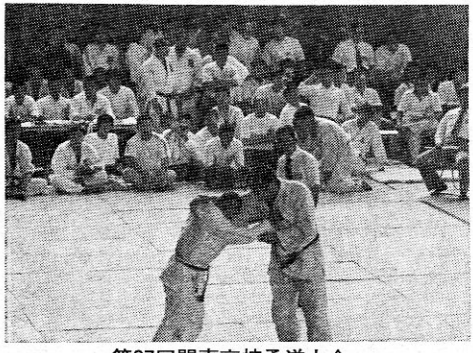
柔道部関東大会へ

二年連続六回目の出場

顧問　込山英雄

去る五月三日横浜市立東高校で行われた関東大会県予選で五位入賞で二年連続六回目の関東大会出場の栄誉を手にした。

関東大会は、群馬県前橋工業高校で行われ、本校は予選リーグで千葉一位勝生、伊藤の両選手が出場権を得、高梨選手は両選手と互角の白熱した試合を展開し、あと一歩というところで無念の涙をのんだ。また今大会に出場した曽我、清水、細野選手も4回戦まで勝ち進み、日頃の練習の成果を十分に発揮し、県剣道界に秦野高校女子強しの印象を与えた。選手は全員2年生で松島先生の指導で鍛え抜かれているので、今後の活躍が大いに期待される。



第27回関東高校柔道大会
選手、前列応援者は秦高勢、中央丸首は込山顧問

男子　大村・原組関東大会へ

テニス　顧問　秋山修
〃　伊藤律子

去る四月二十九日小田原市営城山庭球場で行われた関東県予選会で、大村・原組がベスト16本にはいり、男子として三年ぶりに出場権を得ました。後衛の大村は浜岳中学校出身で二年生から頭角をあらわし、威力のあるフォアストローク、サービスを武器に破壊力もあります。前衛の原は二宮中学校出身で、中学時代は剣道部に所属し高校から庭球を始めました。練習を休まずその努力は立派だと思います。非常にガッツがあり、レシーブ、ポーチボレーに優れ、動きも速く、大変息の合ったペアです。

入賞をめざし益々練磨を重ねていきたいと思います。

この成果は、日頃の先輩諸兄の直接、間接の御支援と感謝しております。

○出場選手
先鋒　振原　守（三年伊勢中）
次鋒　曽我芳弘（三年金旭中）
中堅　横森真一（三年西　中）
副将　大川　渉（三年西　中）
大将　泉　昭彦（三年東名中）

○五月三日関東予選

四回戦　秦野3―1横浜南
準々決勝　秦野0―2東海
敗者復活戦　秦野2―1桜ケ丘

○六月九日関東大会
予選リーグ　秦野1―2育英
秦野13―勝浦

なお、白井幸彦先生（本校21年～36年柔道部顧問）は、現在県立川和高校の校長であられ高体連柔道部の部長として活躍されておられます。

続いて三十日団体戦では、三年生ペア大村・原組、松本・小林組を中心に二年生ペア阿部・三武組でベスト8にはいりました。五回戦対平沼戦で優位に試合を進めマッチポイントを二度とりながら惜敗したのは今だに悔まれます。

五月総体を目ざして、一段と練習に励みましたが、木村・原組の地区予選二回戦での敗退。そして部長である大村の交通事故と予想もしない事がおこり関東県予選以上の成績が上げられなかったのは残念です。

関東大会は六月三日埼玉県熊谷市で、大村に代わり松本・原組で出場しました。一回戦東京巣鴨高校内田・江坂組としました。松本のフォアストサービスがはいらず原のレシーブミスも多く、力を出しきれずに2―④で敗れました。

現在、男子九名、女子十四名と少ない部員ですが、一致団結して精進したいと思います。

あらかると

石井隆士先生の巻

秦野高校が生んだ陸上の王者石井隆士選手は、今年四月から体育の先生として母校にもどった。昭和四八年三月、高校二五回の卒業。秦高最高の名誉賞「広畑賞」の受賞者でもあり、日体大を経て日本陸上界の現役である。（土屋毅記）

○日本スポーツ賞　（昭和51年度）
○神奈川スポーツ賞　（昭和50年度）
○神奈川スポーツ優秀選手賞（７年連続）
（昭和47年度～昭和53年度）

日本代表、ヨーロッパ遠征に参加して

石井隆士（高25回）

欧州への遠征は今回で四回目になるがいつも感じることは世界の広さと競技選手の強さである。今回はフィンランド、西ドイツ、ノルウェーの三ケ国を転戦して来たが、年々、層の厚さを示すことに驚きを感じて帰って来た。「環境と人間性」

日本との一番の違いを感じたのは何と言っても環境である。特に西ドイツは到る処に芝生の公園があり、スポーツ施設があり、そして森や林の中にはランニングコースまであった。日本とはえらい差である。とにかく広すぎる程広く、道に迷うこと数回、二時間半近くも森の中をウロウロ走り回っていたこともあった。

西ドイツは陸上競技以上にサッカーが盛んなため、十一、二才の少年から三、四十才の壮年層までが夕方暗くなるまで汗を流していた日本との社会性の違いもあるのだろうが、余暇の過し方にも感心させられる面が多くあった。

東洋人は喜怒哀楽を表現するのが下手だと言われている。競技会などでも、観客と選手がなかなか一体とならない。今回、五回の大会に出場して来たが、全ての競技会がスタンドいっぱいになり、観客のほうがその試合を盛り上げてくれると言ったふうだった。拍手あり、手拍子あり、それに歓声あり、ラッパあり、競技会のプログラムが進むにつれて、スタンドは異常なまでの興奮状態となる。

喜びを自然のうちに表現できる人間性をも羨ましく思った。

「競技と精神力」

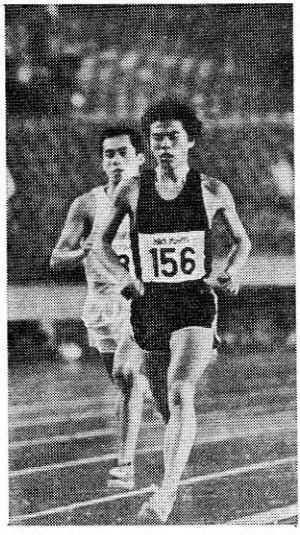
欧米人のどこにあのような強い精神力があるのかとよく思う。

それは、陸上競技をただ走る、跳ぶ、投げるだけのものでなく、陸上競技からも自分自身をつくりあるいは一人の人間をつくろうとする「道」として考えているような感じだ。外人の強さの中に、「神」を、「キリスト」を、そして「コーチ」を信ずる、何ものに

も染っていない純粋な精神があるからではないだろうか。

信ずるものを根底とした、死にもの狂いで取り組んでいる競技者たちの眼を見た時、私の考えの甘さ、弱さを痛切に感じた。

井の中の蛙が、世界の陸上界をほんの少し垣間見て、「ああ、自分でも少しは通用するんだな」と感じたのが、二年後に本当の世界の姿を見せつけられ、打ちのめされて帰って来た時の心境と、今、全く同じである。今、眼の前は真暗だ、一寸先も見えない状態ではあるが、一点の光を求め、そして



その光をより大きくするために、これからの自分の戦いが始まる。

母校に勤めてまだ四カ月足らず今回の遠征で得た貴重な体験を多くの場面で、生徒たちに教え、伝えていきたい。

最後に、多くの理解と援助して下さった諸先生方に深く感謝したい。

秦高の先輩も、後輩もこぞってモスクワを期待する石井隆士先生の力走ぶり。

伊勢原支部だより

伊勢原支部事務局

横　山　清太郎

わが伊勢原支部は、本校五十周年記念事業を基点として、去る昭和五〇年七月五日に結成され、能条斐雄支部長のもと、各地区役員の方々のご尽力のもとに活動をつづけて参りました。

その間、地区組織において数度の改組が行われたところもあり、ようやくにして、昨年度において完全なる態勢が整い、会費の納入状況においても別表のとおり、前回を大巾に上廻る好成績を挙げることが出来ました。

今後は、これらの地区組織のさらに充実を図り、同じ学び舎を巣立った者達、老若男女多数が一堂に会して楽しく語り合える日が近くなることを念じつつお互いに努力をして参りたいと存じます。

去る八月三日午後五時伊勢原支部役員会が開催され、前年度における反省、検討がなされ、今年度における同窓会報「広陵」の配布並びに年度会費納入対策等についての協議がなされました。

今年度の本部総会は、来る八月二十六日（日）に秦野市商工会議所において開催されることに決定されておりますので、その前に、各地区役員の方々が会員皆様のお宅を伺って、会費納入ご協力のお願いをすることになっておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

なお、明年度は伊勢原市が会場担当支部と予定されています

昭和53年度会費納入状況

秦高同窓会伊勢原支部

地区名	会員数	本部会費		支部会費	
		人	金額	人	金額
伊勢原地区	506	367	183‘500	368	36,800
岡崎地区	51	1	500	1	100
大山地区	59	52	26,000	52	5,200
子易地区	31	28	14,000	28	2,800
高部屋地区	131	116	58,000	116	11,600
比々多地区	183	167	83,500	167	16,700
成瀬地区	187	75	37,500	75	7,500
太田地区	183	168	84,000	168	16,800
計	1,331	974	487,000	975	97,500

恩師訪問

日本洋画壇に山下芸術を築かれた「山下大五郎画伯」を語る

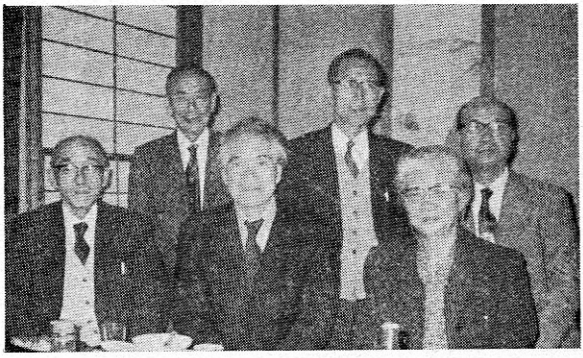
田中典臣（中五）

▲現在母校の校長室に飾られている山下画伯の絵

山下大五郎画伯は藤沢市の御出身で、秦中美術の先生として、二番目に着任された先生ですが、昨年十一月、小泉薫三君の招待で、深い交際の宮本信義君と、山口直誉君と私の四人で、山下大五郎夫妻を囲む一泊会を大山で開きました。

山下先生は湘南中（高校）一回の卒業生で、東京美術学校を出られて直ぐ秦中教師に迎えられましたが、美校在学中にすでに帝展に初入選された天才的な先生で、秦中に三年間ぐらいおられました。その後上京して画道に専念され、文展特選二回以来、無鑑査に推せんされ活躍しておられましたが、その後官展を離脱され、同志と立軌会を結成され、毎年日本橋三越画廊で個展を開かれている洋画界の重鎮画家であるだけに、大山で夜おそくまで飾らず飄々と語られた話の感興を思い出すたびに、大家となられた画家の心境が感じられました。

今年の五月六日（日）午前八時半からのフジテレビのテレビ美術館で、最近の作品、美しい日本の風景画の十五点ほどが放映され、「越後の田園」、「段田の風景」、「日光の杉並木」、「津軽の旧家」など、美しい自然と生活が溶けあった地方の古い民家の風物詩の風景画を、アナウンサーにたんたんと説き語られる姿に、大山での夜を思い出し、山下大五郎画伯は秦高にとっても忘れられない、因縁の深い恩師である事と、先生の秦高から弘法山を見た景色の立派な大作品が校長室に飾られていることをご紹介し、なお、先生の絵が目にとまった節は関心をもって視ていただきたいと思います。



▲　前列中央山下画伯、その右に奥さん

「奈五美会」（秦中五回卒）の近況

秦中を卒業して四十五、六年になると、皆六十三、四才になり、それぞれ社会的に活躍している人もあり、奈五美会には毎回二十名～三十名ぐらい集まっていながら秦高同窓会総会への出席率が低いのをおわびして、近況を報告します。

奈五美会も終戦後二・三回有志の会合があっただけでしたが、昭和四十二、三年頃から毎年、近くの箱根や大山あたりを一泊予定で「おめえやい」の同級生の会が開かれています。

人間五十才を過ぎると涼風が立ち始めて、お互にどうしているだろうとの感も深くなる反面、働らきざかりで忙しいと云う事もありそれ程の集まりではなかったが、六十才になり、昭和五十年頃からは定年組も増えて、ぶらない、枯れた気持に成長して、だんだん盛会になり、「どうだい体の調子は」と云う様なことで、渾然たる楽しい会になってきました。

参加者も東京は勿論、北は山形南は九州などから顔を見せてにぎやかです。

二年毎の地区当番交代で行われるこの会も、秦野地区が終り、今年から伊勢原地区の担当となります。今迄の案内通知文の中には、時には短歌、川柳、俳句なども書かれ、楽しい会になっています。

奈珂中の五期生われら みつはぐむ　語り鋭く生くる妙薬

働ける時は働き休養は　思いきってとる老い行く人生

おめえやい白髪と禿が寿を語り

箱根の湯　還暦祝う酒の味

奈五美会　偉いもへちまも　べランメー

この浮世　さとり切れずに　年数え

水澄みて小石さからい沈むなり

相応に不平もあって平和なり

逝く友に野辺の涙や返り梅雨

またひとりはるけく旅立つ　夏の日に

など年を感じますが、秦高の発展を祈って報告まで。

なごみ会秦野地区幹事

宮本　信義

宇山　武夫

山口　真誉

田中　豊臣

「偉いもへちまもべランメー」の奈五美会のメンバー

会員の近況報告を

中根 三郎（高3）

現在母校は一学年一〇学級、男女共学の大規模校に発展しております。毎年の卒業生も四五〇名近く、その分同窓会員数も増加し続けています。今年三月の高校第三十一回卒を迎えて、会員の延数は実に二万人の大台を越したことになります。（別表参考）

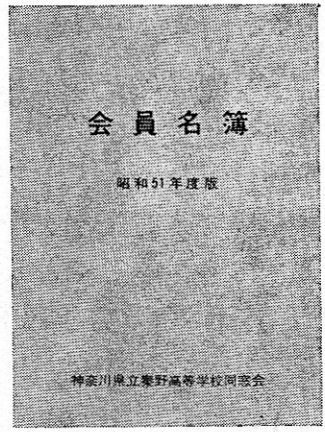
同窓会本部では、これら全会員の動静（現住所・勤務先・最終卒業校・自宅の電話・改姓改名など）を絶えず集収し、住所録の補充訂正を行い、同窓会活動の基本資料にしたいと頑張っています。

名簿に変更のある方や、昭和五十一年以後、住所や電話番号、勤務先等が変った人、特に五十一年以後大学に入学または卒業された人はその学校名や就職先などについて近況報告を、本部宛お知らせください。

同窓会員現況（昭和54年7月現在）

	会員数	死亡	現在数	所在不明
旧制中学卒	1,793( )	357( )	1,436( )	114
併設中学卒	384( )	15( )	369( )	17
高等学校卒	8,741(437)	96(2)	8,646(435)	392
合計	10,919(437)	468(2)	10,451(435)	523

但し、( )内の数は女子の数(内数)



名簿の販売について

会員名簿を五十周年記念事業の一つとして発行しましたが、残部がありますので、御活用ください。同期会や地区会の折など事前に本部宛ご連絡いただければ御手配いたします。

◎B5版　本部　三五〇ページ
◎一冊　一三〇〇円（送料共）
（但し手渡しのときは千円）
◎送金は、同封の振替用紙または現金封筒でお願いします。

会費納入お願い

昭和四十六年度より会費を徴集することになりました。従来なかったことですが、本会発展のため、絶大な御協力をお願いします。年会費五〇〇円。

送金の方法

同封の振替用紙に所要事項御記入の上、最寄りの郵便局で御送金下さい。別に振替手数料二十円を要します。なお、郵便局の受領証にて本会の領収書にかえさせていただきます。（石原記）

原稿お寄せ下さい

紙面が豊かになり楽しくなるのも、一つ会員のみなさんの手にかかっています。とにかくニュースをお届け下さい。

送付先　秦野市下大槻一一三
県立秦野高等学校内
同窓会事務局　土屋毅宛

編集後記

毎年ながら、学期末と重なり、夏休み返上で今年も作りました。遅れましたが叱らないでほしいものです。（土屋 毅記）

発行所　秦野市下大槻一一三番地
県立秦野高等学校内
〒257
秦野高校同窓会
広報委員会
電話秦野(0463)(77)一四二一～三
振替口座　東京二一二六八九
発行責任者　村松晃男（中6回）
編集責任者　土屋 毅（高4回）
青木利之（高4回）
石井郷二（高7回）